

・海外感染症流行情報(2014年3月)

・フィリピンからの麻疹輸入例の増加

前号でも紹介したように今年は日本国内で麻疹の輸入例が増加しています。2月下旬までに119人の患者が確認されており、これは昨年同期の3倍以上の数になります(感染症発生動向調査週報 21014年第8週)。このうち47人が海外での感染例で、38人はフィリピンでの感染でした。2月以降は国内感染例も増加していますが、これは海外からの輸入例を起点にして国内感染が拡大しているようです。なお、フィリピン保健省の発表によれば今年2月中旬までに同国内で麻疹を疑う患者が1万5000人以上発生しており、その数はマニラ近郊で多くなっています(厚生労働省検疫所 2014年3月19日)。フィリピンに滞在する方で、麻疹ワクチンの接種を最近受けていない場合は、渡航前にワクチンの追加接種を受けておくことを推奨します。

・中国での鳥インフルエンザ H7N9 の流行は鎮静化

中国南部での鳥インフルエンザ H7N9 の流行は3月も続いています。患者発生数は次第に少なくなっています。WHOもウイルスの状況などに関して、流行発生時と大きな変化はないとの見解を示しています(WHO Global Alert and Response 2014-3-11)。2013年10月に第二波の流行が発生してから患者数は266人(3月18日まで)で、このうち66人が死亡しました(外務省海外安全HP 2014年3月18日)。

・中東での MERS 流行状況

中東での MERS コロナウイルス感染症の患者発生は3月も続いています。この1カ月間の患者数は16人でサウジアラビアが最多の13人でした。3月下旬までの累計患者数は198人で、このうち84人が死亡しています(WHO Global Alert and Response 2014-3-20)。3月中旬にはサウジアラビアの首都リヤドで4人の家族内感染がありましたが、最初のケースはラクダからの感染が疑われています(WHO Global Alert and Response 2014-3-18)。MERS の流行が大きく拡大する様子は今のところありませんが、今後も監視を続ける必要があります。

・ギニアでエボラ出血熱の流行発生

西アフリカのギニアで2月から原因不明の出血熱患者が発生していましたが、この原因がエボラ出血熱(ザイール型)であることが判明しました(WHO Regional Office for Africa 2014-3-23)。3月22日までに49人の患者が確認され、このうち29人が死亡しました。患者発生が多いのは同国の南東部ですが、首都コナクリでも患者が発生しているとの情報があります。また、リベリアやシエラレオネとの国境付近でも患者が発生している模様で、周辺諸国に流行が拡大することが懸念されています。

・ブラジルでのデング熱流行状況

ブラジルでは今年の6月にFIFAワールドカップが開幕しますが、現地で観戦する際にはデング熱対策が必要です。日本代表の第1戦と第2戦が行われる大西洋岸のレシフェとナタールは、6月が雨季に

なるため、デング熱の患者が例年増加します。また、第 3 戦のある内陸部のクイアバでは、今年になり既に 200 人以上のデング熱患者が発生しています (ProMED 2014-3-7)。デング熱を媒介する蚊は昼間吸血する習性があるため、日中、蚊の多い場所に立ち入る際は皮膚が露出しない服装をするとともに、昆虫忌避剤を使用するようにしましょう。